



クラシノソコアゲ応援団！ー第4弾ー Action!36 キャンペーンスタート!!

Action!

36



Action!36

長時間労働をなくしてより良い働き方を実現しよう
街宣で訴える神津会長(右)(2018.10.11)

3月6日は、「36(サブロク)の日」
適切な36協定締結で、もっと働きやすく!

【産別・単組にお願い】

☆上記ロゴを「連合鳥取ホームページ」からダウンロード産別・単組の機関紙・ホームページで活用してください。

『Action!36』のロゴを
ご活用ください!

連合鳥取

検索

○街宣活動 など

○全国一斉労働相談ホットライン

○36協定の適正化や時間を大切にしたい働き方・暮らし方をテーマにしたフォーラムの開催

○連合鳥取においても、働き方改革関連法施行を視野に、すべての職場でより良い働き方の実現をめざし、連合本部の作成する器材等を活用し、労使による職場での取り組みの強化と、労働組合の正しい職場への周知徹底に向け取り組みます。

連合は、今秋より、すべての職場でのより良い働き方の実現をめざす、「クラシノソコアゲ応援団!RENGOキャンペーン」第4弾「の取り組みの一つとして、36協定の適切な締結をはじめとする職場の取り組みの徹底とともに、地域や社会における機運の醸成を図る特別キャンペーン「Action!36」を開始しました。

そのキックオフとして、10月11日(木)夕刻、東京駅前で行われた街宣行動において、連合の神津里季生会長は、「過労死や過労自殺で亡く

訴えました。

今日を皮切りに、全国で運動を大々的に展開していきたい」と訴えました。

なる方が、労災認定ベースでも年間200人以上もいる。そんな日本を変えたい。その思いで、『Action!36』をスタートさせた。

Information

※詳しくは、連合鳥取事務局へお問い合わせください。

連合鳥取/第26回定期大会

■日時

11月15日(木)10時30分開会

■場所

倉吉未来中心・小ホール

各地域協議会・女性委員会・青年委員会/定期総会

■東部地協/12月5日(水)18時30分～
白兔会館

■中部地協/12月7日(金)18時30分～
倉吉体育文化会館

■西部地協/12月4日(火)18時30分～
米子コンベンションセンター

■女性委員会/12月8日(土)9時45分～
倉吉未来中心

■青年委員会/12月16日(日)10時30分～
米子コンベンションセンター

過労死等ゼロに向けて フォトメッセージ



東部地協幹事会



中部地協幹事会

私たちの職場から過労死・過労自殺を出さないために、11月の過労死等防止啓発月間にあわせ、過労死等ゼロに向けて「フォトメッセージ」の取り組みを展開中!!

☆連合のホームページを見てね



11月は過労死等防止啓発月間



ー自分の働き方、家族の働き方を見つめ直してみませんか?ー

こんなことに心当たりはありませんか?

- 長時間労働が続いている
- 周囲に相談相手がいない
- 月曜日(休日明け)に休むことがある
- ふさぎこんでいることが多い



ディーセント・ワークの実現で 働きがいのある人間らしい仕事を!

ディーセントワーク 街宣活動を3会場で実施

連合も加盟している国際労働組合総連合(ITUC)は10月7日を「ディーセント・ワーク世界行動デー(WDDW)」としており、世界中での一斉行動を呼びかけています。

連合鳥取の東・中・西部地域協議会は、青年委員会・女性委員会のみなさんと一緒に「ディーセントワーク/働きがいのある人間らしい仕事」と「鳥取県最低賃金の改定」をアピールするチラシを配布し、街頭宣伝活動を行いました。

ディーセントワークの意味・4つの目標、10月5日に改定された鳥取県最低賃金<1時間762円>、働き方改革法の成立にともなう法律の概要と「高度プロフェッショナル制度」の問題点について地域のみなさんにアピールを行いました。

「ディーセント・ワーク」 4つの目標

- ①仕事があること。
- ②安全で健康に働けること。
- ③職場での問題が平和的に解決されること。
- ④働く者の権利が保障されていること。



10月5日(金)/JR米子駅前



10月19日(金)/JR倉吉駅前

「ディーセント・ワーク」について知っておきたい基礎知識

「SDGs:持続可能な開発目標」には「ディーセント・ワークの促進」も!

2015年9月に開催された国連総会で、「ポスト2015年開発アジェンダ=持続可能な開発目標(SDGs)」が採択されました。2011~2015年のミレニアム開発目標(MDGs)を引き継ぎ、2016年から2030年までに達成すべき17の目標を掲げています。

労働組合も目標達成に向けて取り組みます!

「SDGs」は先進国・途上国の別なく、「誰一人取り残さない」とも誓い、全世界が達成をめざすコミットメントです。連合も世界の達成の一員として、すべての人にディーセント・ワークが実現するよう取り組みを進めています!



青年委員会 列島クリーンキャンペーンに33人参加

青年委員会は、10月14日(日)、鳥取砂丘除草作業と砂丘ヨガ体験を行いました。

【鳥取砂丘除草作業】自己紹介兼ねてのアイスブレイクの後、除草ポイントまでガイドの方と砂丘の歴史などの話を聞きながら移動し、取っってもよい草とそうでない草の説明を受け作業しました。

初めのうちは違いがわからず苦戦しましたが、だんだん見分けがつくようになり、たくさんの雑草を取ることができました。

【砂丘ヨガ体験】ヨガでは、まず砂丘の砂と親しむ所からスタートしました。裸足になり、急な斜面を登りました。

ヨガマットを使用してインストラクターの石谷依利子さんのご指導のもと、様々なポーズ・ストレッチを行いました。

天候が心配されましたが、秋晴れのよい天気となり、太陽の光・風・波の音などの鳥取の魅力が詰まった広大な砂場で自然を全身で感じる事ができました。参加者にはご当地グルメ「あごかつパーガー」が配布され、身も心もお腹も満足のイベントとなりました。



写真上/インストラクター石谷依利子さん

2019年度政策・制度要求 部局交渉

8月7日(火)、平井伸治鳥取県知事に手交した「働き方改革の推進」など34項目からなる「政策・制度要求要請」について、最後の部局交渉(地域振興部・生活環境部)を10月19日(金)、鳥取県庁にて実施しました。



地域振興部



連合鳥取



鳥取市議会議員選挙

告示日: 11月11日(日)

投票日: 11月18日(日)



下記施設で「期日前投票」ができます!!!

施設名	投票期間	時間
鳥取市福祉文化会館、国町・横町・河津町・気楽町・青谷町・野町各総合支所、用賀地区保健センター、佐治町コミュニティセンター	11月12日(月)~11月17日(土)	8時30分~20時
イオンモール鳥取北 2階	11月12日(月)~11月17日(土)	10時~20時 ※11月17日のみ19時まで
鳥取大学(広南センター)	11月13日(火)	10時~18時
公立鳥取環境大学(学生センター)	11月14日(水)	10時~18時

「組合員の声を市政に!」

鳥取市議会議員選挙が11月11日(日)告示、18日(日)投票の日程で行われます。連合鳥取は、第9回執行委員会(2018.8.23)において、右記の予定候補者の推薦決定をしました。



長坂 則翁さん(70)3期



秋山 智博さん(63)2期



柿田 昇一さん(59)2期



足立 考史さん(62)1期



勝田 鮮二さん(63)1期

■特集■ いつまでも現役！元気に活躍！鳥取退職者連合

台風に負けず 鳥取退職者連合「第26回定期総会」を開催

10月1日(月)、鳥取退職者連合は、米子コンベンションセンター(米子市)に総勢48人(来賓・5人・代議員25人・執行部15人・オブ3人)が集い「第26回定期総会」を開催しました。

当日は、前日に日本列島を通過した台風24号の影響でJR(山陰本線など)が不通、また、道路も至る所で寸断されるなど大変な状況の中でしたが、多くの代議員、役員のみなさんにお集まりいただき、「定期総会」は無事終了することができました。

原 進代議員(NTT労組退職者の会)を議長に選出し、斎木兵治会長、ご来賓のみなさんのあいさつの後、早速議事に入りました。山田敏明事務局長の一括提案の後、幸本 久代議員(NTT労組退職者の会)の質問を受け、その後、2018年度の活動の総括と、2019年度の活動方針、予算、2019-2020年度役員体制について満場一致で承認いただきました。

定期総会終了後は会場を「うなばら荘」に移し、昼食懇親会を開催しました。短い時間ではありましたが、旧交を温めることができました。

【全県学習会】日本退職者連合の菅井義夫事務局長を講師に迎えた講演会を企画していましたが、飛行機が米子空港に降りることができずやむなく中止しました。



「第23回グラウンド・ゴルフ大会」 盛大に開催!!

斎木兵治会長のあいさつの後、来賓の石田耕太郎倉吉市長、湯原俊二国民民主党鳥取県総支部連合会副代表にあいさついただきました。また、今回、全労済鳥取推進本部より「グラウンド・ゴルフ用具セット(写真下)」の寄贈をいただき、五十嵐美知義本部長も駆けつけて激励のあいさつをいただきました。



開会式の様子 (写真上) 石田倉吉市長

10月15日(月)、大御堂庵寺跡広場(倉吉市)において23回目を迎える「グラウンド・ゴルフ大会」を開催し、総勢184人が参加しました。



団体戦優勝



全労済からの寄贈 五十嵐本部長

一団体戦ー 参加 24 チーム(6 組織)

優勝 自治退(県・中部A) 241 打 ホールインワン 2 本
準優勝 J P 労組(中部A) 255 打 // 1 本
第3位 情報労連(西部A) 256 打 // 3 本

一個人戦ー 174 人(8 組織)

優勝 小谷 宏章(情報労連・西部) 33 打 ホールインワン 2 本
準優勝 畔田 義明(自治退・県中部) 35 打 // 1 本
第3位 河越 春雄(UAゼンセン) 36 打 // 1 本

(敬称略)

産別リレー

JAM
におじゃまして



JAMは～価値を認め合う社会へ～に取り組んでいます

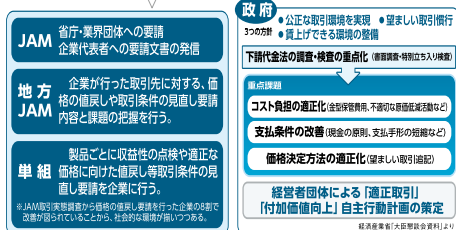
JAMは、大手と中小の格差是正には公正な取引環境の確立が不可欠であると訴え、取引環境が及ぼす影響について一定程度社会的な認知が進んでいます。具体的な行動として、付加価値の適正な配分を目に見えるものとするため企業の収益改善にむけた価格の見直しをおこなうよう経営者を促し、改善に取り組んでいます。特に中小企業の取引環境の改善により、適正な付加価値から生まれた賃金引き上げ原資を労働者への配分として「人への投資」につなげていく取り組みを進めています。

単組・地方JAM・JAMの取り組みと、政府・省庁への具体的な要請行動

優れた技術や技能で生み出された製品の価値が、相応しい価格で売買できる取引慣行の実現は、企業の発展と労働者の雇用と生活の安定・向上には欠かせない課題

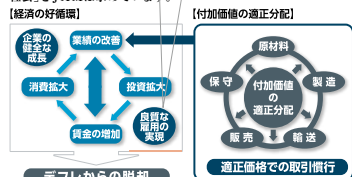
実態調査から、「製品価格の低下」を「取引先からの値下げ要求」を8割が回答

「価値を認めあう社会へ」に向けた取り組み



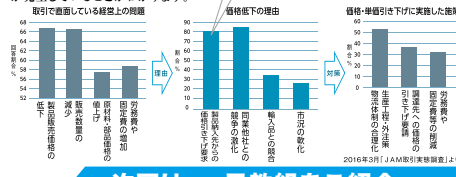
JAMがめざす価値を認めあう社会とは

優れた技術や技能でつくられた製品やサービスが、その価値に相応しい価格で売買できる取引慣行の実現は、企業の健全な発展と労働者の雇用と生活の安定・向上には欠かせない重要な課題です。すべての取引で付加価値が適正に評価され、価格転嫁される社会をJAMは求めています。



JAMの取引関係における課題

JAM取引実態調査によると、経営課題として「販売価格の低下」や「原材料費の値上げ」などを挙げています。価格低下の理由として、「取引先からの引き下げ要求」を8割が理由の一つとして挙げています。その対策としては自助努力の他、「調達先への納入価格の引き下げ要請」や「労務費や固定費等の削減」を挙げていて、負の連鎖が発生していることがわかります。



今回は…日教組をご紹介します



湯原 俊二

— 緑肥の想い —

アベノミクスの成果は、 虚構、見せかけです。

安倍総理は、アベノミクスで景気が良くなり有効求人倍率が上がったかのようにいいますが、有効求人倍率が上がった大きな要因は、団塊の世代が退職して生産年齢人口が減少したからです。

また、景気が良くなって株価が上がったかのようにいいますが、実態は、国民の年金積立金や日銀の公的資金を大量に株式市場に入れ、株価を下支えし、株高を演出しています。

その結果、東証の銘柄の多くは、大株主は公的資金です。100社以上の筆頭株主は公的資金です。株価が暴落した時、国民の年金積立金が目減りするリスクもはらんでいます。安倍総理が持ち出す数字は、見せかけのつまみ食いしたい数字ばかりです。国民の目を欺く安倍政権の政治姿勢は、ここでも見受けられます。



“ザ・議員”

福間 裕隆 鳥取県議会議員

交通政策基本法<2013(H25).11成立>に基づく
鳥取県内バス路線再編キックオフ！
(南部町ふれあいデマンド出発式)
— 行政・事業者・利用者が一体となり
公共交通政策を推進 —

公共交通の利便性向上を図るため、県・市町村・交通事業者・利用者等で構成する鳥取県地域公共交通活性化協議会が、2015(H27)年から県内3圏域で協議をスタートしました。

3圏域毎に地域公共交通網形成計画を策定し、県西部では10月1日から路線再編が実施されました。南部町の「幹線の効率化と支線のデマンド化」路線再編キックオフに参加しました。

今後も、利便性の高い公共交通環境の実現に向けて奮闘いたします。



写真左から2番目が福間議員

伊藤 ひろえ 米子市議会議員

連合鳥取の組合のみなさま方には、日頃より大変お世話になっておりますこと、心から感謝申し上げます。

さて、子どもの貧困が社会問題となっておりますが、抜本的対策はまだまだだといわざるをえません。また、一方では、こども食堂が全国で急増しているということです。

私も貧困や孤立対策になるのではと、人がつながる地域の居場所として「こども食堂 さちカフェ」を開催し4年になります。これまで、不登校の子どもやいじめに遭った子どもが、元気を取り戻すことができました。鳥取県内、また、米子市でこのような取り組みが広がるよう、議会でも訴えてまいりたいと考えています。

「安心して子どもを生み育てられる米子市」

実現に向けて力を尽くしてまいりますので、今後ともご支援ご指導賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。



写真後列左から3番目が伊藤議員

11月といえば、文化の日を中心とした文化祭や七五三等で町は賑い、山間部においては、紅葉が見頃で観光客も多くなる月である▼一方で冷え込みが厳しくなり、寒暖の差で体調を崩しやすくなる時期でもあり、さらにはインフルエンザの予防接種に足を運ぶ人も多い時期でもある。インフルエンザは非常に感染力が強く、体内に入っただけで100万個に増殖するといわれており、日本では毎年約1千万人、約10人に1人の割合で感染しているといわれている▼昨年のインフルエンザワクチンは、製造過程の変更により製造量が減り、ワクチンが不足する事態となったようであるが、今年の10月の段階では例年並みに製造されているようである▼しかしながら、特に子どもやお年寄り・受験生がもらえる家庭は早めに予防接種の予約により対策されることをお勧めする。



てんじんどうぞ



再生紙を使用しています